

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495500199	事業の開始年月日	平成24年2月1日
		指定年月日	平成24年2月1日
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語みやまえ		
所在地	(〒216-0022) 川崎市宮前区平2-19-62		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成26年 9月 10日	評価結果 市町村受理日	平成26年11月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>花物語みやまえは、溝の口駅より、向ヶ丘遊園駅東口行きバスで約15分程のところから坂を上ったところにある、静かで緑の多い自然な環境の中にあります。</p> <p>平成24年2月1日開設の認知症対応型共同生活介護施設です。</p> <p>施設理念に基づいて、今までの暮らし方を尊重し、その人らしい生活を継続できるようチーム（施設全体）で取り組んでいます。お風呂は午後3時頃から始め夕方にかけて入浴できるよう支援しています。毎週日曜日朝9：00には町内会の体操を『花物語みやまえの駐車場』で行い地域交流を行っています。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目-10番地 横浜大英ビル8F		
訪問調査日	平成26年9月25日	評価機関 評価決定日	平成26年11月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 花物語みやまえは、小田急線向ヶ丘遊園駅からバスで10分、溝の口駅(JR南武線・東急田園都市線)からバスで20分、川崎西部地域療育センター前で下車し、徒歩5分の坂の途中の団地に囲まれた閑静な住宅地に位置している。玄関には「花守り」と呼ばれる担当者が毎週金曜日に生け花を飾り、季節感を演出している。開設から2年半と新しく、清潔感があり採光も充分で明るい。バリアフリーで手すりが設置されており、廊下も車椅子と人が通れる広さがある。各階にはトイレが4箇所ずつ設置されている。</p> <p>【利用者の意向を尊重した支援】 理念に基づき、日々の支援の中で利用者の意向を把握して、自立度の高い方は近隣のスーパーに職員と一緒に買い物に出掛けたり、入浴や更衣、炊事、清掃、洗濯など可能な限り、利用者の意向を優先して自宅にいる時と同じように自由に過ごせる環境を整えている。就寝時間や起床時間も体調を考慮して無理な促しはしていない。気の合う利用者は、自由に居室に入出入りして交流している。手芸クラブ、音楽クラブ、体操クラブを作り、利用者は希望に応じて自由に参加して交流を図っている。仲良し同士のお茶飲み会も利用者の安らぎになっている。誕生日は利用者の希望をかなえる日と位置付け、家族の協力を得て、家族による誕生日会や外食、外泊などを実施している。</p> <p>【地域との連携】 運営推進会議や地域包括支援センターとの連携を軸として、地域との関係を深めている。夏祭りや盆踊り、包括支援センターのイベントなどに参加している。事業所のコンサート・ティーパーティーには利用者家族や地域の方も参加している。毎週日曜日に行われる「平日向2丁目体操」に参加して地域の方と交流している。事業所の見学会や説明会を開催し、事業所の説明と同時に、認知症や介護保険について説明している。近隣の保育園とは運動会を見学しに行ったり、園児が散歩の途中に事業所を訪ねたり、双方向の交流がある。散歩時の交流をきっかけに地域の方から花を頂いた。利用者による音楽クラブがコーラス隊として田園調布学園大学の学園祭で歌を披露することもある。ボランティアも多岐にわたり活発に活動しており、利用者は自由に生活を楽しんでいる。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語みやまえ
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全ての職員が施設理念を理解し、入居者様の気持ちをくみ取れるよう努めています。おひとり、おひとりが自分の居場所だと感じられるよう、支援しています。	5項目からなる事業所の理念は、設立時に施設長と職員で作成した。事業所内・玄関・廊下などに掲示し、各種記録ファイルにも綴じ込み、申し送り時や職員会議などで、常に振り返ることができるようにしている。さらに新人研修などで説明し、職員各自に理念が記載されたカードを配布して、いつでも確認できるようになっている。「家庭的な温かさと安らぎのある暮らし。おひとり、おひとりのペースを何より大切にします。」を実践し、朝も起床してきた利用者から順番に朝食をとったり、一斉に何かをするのではなく、自由に過ごしている。手芸クラブ、音楽クラブ、体操クラブを作り、利用者は希望に応じて自由に参加して交流を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊りやコンサート、包括支援センターのイベントなどに参加しています。散歩の途中でお花を頂くこともあります。毎週行われる『平日向2丁目体操』に参加し、近隣のお年寄りとの交流も生まれています。また、入居者のお買い物は、日常的に入居者と一緒にお買い物に出て馴染みの関係も育っています。地域包括支援センターの定例会議では、地域の問題なども共有し繋がりを深めています。	平日向町内会の準会員になっている。利用者は夏祭りや盆踊りなどの行事に参加している。日常的に近隣のスーパーに買い物に行ったり、団地内の敷地を散歩したりして交流を図っている。事業所の行事としてのコンサート・ティーパーティーには、利用者家族や地域の方も参加している。利用者による音楽クラブがコーラス隊として田園調布学園大学の学園祭で歌を披露することもある。保育園の運動会に招待されたり、園児が散歩の途中に事業所を訪ねることもある。ボランティアは畑(NPO) やサックス演奏、童謡を歌う会、手芸クラブ、オセロ、傾聴、囲碁など多岐にわたっている。毎週日曜日には宮前区健康づくり支援事業として町内会主催の「平日向2丁目体操」をオーナーの駐車場で実施し、利用者、職員も参加している。事業所の見学会や説明会を開催し、事業所の説明と同時に、認知症や介護保険について説明している。	

3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>施設の見学会や説明会を開催し、近隣の方々を招いて施設の説明と同時に、認知症や介護保険についても説明をしています。また、近隣の盆踊り大会や行事に参加し、地域の方に認知症の人との触れ合いの機会も持っていただくと共に、認知症の方が社会参加できる事に理解を深めて頂いています。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、地域との関わり方や地域で行っている行事、会議など多岐にわたり、ご意見を頂戴し参考にしています。地域包括支援センターの行事などに声をかけて頂いて、多数参加しています。</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に1回実施している。メンバーは町内会長・民生委員・地域包括支援センター職員・利用者・家族・オーナー・施設長・職員などで、活動状況や地域の情報について活発に意見を交わしている。外部評価結果の報告もしている。運営推進会議で「平日向2丁目体操」発足の協議をして実現している。議事録は宮前区高齢者支援課に届けている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>宮前区近隣の地域包括支援センターや、宮前区の高齢者支援課へ定期的に訪問し、運営推進会議や施設見学会の情報をお伝えしたり、相談に乗っていただいたりアドバイスをいただいています。また、包括支援センター主催の会議等で、盛んに情報交換を行っています。</p>	<p>宮前区高齢者支援課とは運営推進会議の議事録を届ける際に、介護支援課とは要介護認定更新申請代行などの際に情報交換している。施設長が地域包括支援センターの定例会議や地域包括ケア会議に出席して密接に連携をとっている。宮前区と高津区合同のグループホーム連絡会を立ち上げる予定である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて『身体拘束ゼロの手引き』をもとに、事例検討を含めて、職員への指導を行っています。現在身体拘束を行っている入居者様はいらっしゃいませんが、必要に応じて家族を含め話し合いを行っています。また、施設玄関については防犯上施錠されていますが、入居者様のご希望に応じて職員と共に外出していただいています。	身体拘束を行わないことを利用契約書に明記している。「身体拘束ゼロの手引」を基に新人研修や定期的な社内研修を実施し、職員会議や日常の支援の中でその都度確認している。転倒の危険のある利用者にはベッドの下に赤外線センサーを設置して、音によりそれとなく見守りをしている。玄関や各ユニットのドアは安全を優先し、家族の了解のもと施錠しているが、利用者が外に出たいという様子が見えた時は職員と一緒に外出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で、事例検討を含め、どういふ場合が虐待になりうるケースなのかを話し合い、理解を深めています。職員も虐待を見過ごさないように意識を高く持つように心がけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症ケアを行う上で、必要な知識として研修や学習の機会を設けています。また、必要だと思われるご家族には、制度の説明を行っています。現在1名の方が『あんしんセンター』を利用しています。また、成年後見人の手続きを行っているため、間もなく結果が出るものと思われています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、話し合いを多く持ち、お互い納得の上でご入居いただいています。特に、終末期ケアや、医療行為に関する疑問を具体的に説明し、転倒の不安がある方には、対応方法の具体的な事例を挙げ、ご家族のご意向として、ケアに反映しています。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時の面談や、随時の電話連絡により、家族の意見を取り入れるよう努めています。日々の利用者、ご家族との関わりの中で、面会時間のご相談なども随時取り入れ、仕事帰りでも面会できるようにしています。</p>	<p>家族の来訪時や、電話、メールを利用して、家族の要望を取り入れている。事業所の敬老の日やクリスマスなどの行事に家族が参加する時にも意見や要望を聞いている。駐車場確保の要望があり、近隣に確保した。食事代の無料キャンセル期間が配食業者変更に伴い変更になった件で家族から苦情が寄せられた際に、電話連絡からメール連絡もできるようにして、連絡漏れを防ぐことで納得していただいた。年2回の事業所の遠出の外出には家族の参加もあり良好な関係を保っている。</p>	
----	---	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を通じて意見や提案を検討し、よりよいものにできるよう努めています。意見が出しやすいよう聞き取りシートを配り、コミュニケーションを取りやすい風土づくりに努めています。	職員会議や申し送り時、日常の支援の中でその都度職員の意見を聞いている。年2回の施設長との面談でも聞き取りシートを活用して意見を聞いている。職員に「気づきカード」を配布して、改善案などを投書箱に入れてもらっている。ユニットごとに物品の置き場所の違いがあり、応援時に分かりにくいとの意見があり、置き場所を共通にして改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時に個人面談を行い、就業時間の増減や、契約社員や社会保険の加入についての希望等、契約条件などを考慮し、雇用契約を取り交わしています。無資格者には、資格取得支援制度などの奨学金制度も整備してあります。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の定期的な実施や外部研修への参加・資格取得を推奨するなど、個々のスキルの向上を働きかけています。法人内で施設への実習や、実習生を迎えることで、多くの気づきを得て学習しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市町村等からの研修等や他施設見学に参加する事により、同業者との情報交換やネットワークを構築するよう努めている。また、他事業所との職員間の交流も行っており、サービスの向上を心がけている。現在、高津区・宮前区合同で『グループホーム連絡会』を立ち上げるため調整を行っているところです。 来年月を目途にスタートを切りたいと計画しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、家族や本人に要望や不安ごとを聞き、利用開始時にはアセスメントをしっかりととり、会話の機会を多く持つことで、信頼関係を築けるように努め、どんな事でも話していただけるような良好な関係性を持てるよう努めています。入居者の要望は丁寧に聞き取り、ケアに反映させています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人ご家族が困っている事や不安な材料や要望を聞き取るよう常に連絡を取り合い、アセスメントや介護支援計画書に反映させ、安心して利用していただけるように努めています。例としては、入居者の小遣い持参については、入居者のお気持ちや社会性の持続に配慮し、紛失の可能性もあるという説明をした上で対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まらず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の度合いや、おかれている環境を把握し、入居者と家族の物理的精神的環境を考慮し、GHが適切かどうかも考慮し、サービスにつなげています。場合によっては、小規模多機能型居宅介護や、他事業などへの紹介も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を第一に尊重し、本人のADLや意欲に沿った方法で、職員や他利用者と共に行うことで完成し、仕事ができる喜びを分かち合い、他者と協力しながら生活できるように努めています。		

19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族の意見も反映できるようにし、ご本人の情報をご家族とも共有し、一方通行にならないように心がけています。帰宅願望の強い方への対応については、カンファレンスを行い、統一した声掛けやケアを行っています。		
----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との電話では、コミュニケーションが取れるよう支援しています。また、ご家族との外出の機会が増えるよう、誕生日の外出計画を相談して馴染みの場所の提案などを行っています。	近隣の利用者が多く、家族や友人、知人の来訪が盛んである。手紙のあて名書きや電話の取り次ぎの支援も実施している。家族の協力のもとで、買い物や、外食、帰宅、毎日の散歩、墓参りなども行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	手芸クラブ、音楽クラブ、体操クラブを作り、入居者の希望に応じ参加していただくことで、1F、2Fの交流が生まれ馴染みの関係が育まれています。また、仲良しのお茶飲み会も入居者の安らぎとなっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一度ご縁の出来たご家族へは、定期的に『みやまえ通信』や『コンサート』のご案内を郵送しています。ご家族を通し、地域社会への情報提供や交流の輪を持続的に支援していきたいと考えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアの中でアセスメントを行い、申し送りやカンファから、随時意向や希望の把握を行っています。ご本人の要望にあわせ、出前を取るなど食事内容を変更しています。自立度の高い方は、急な要望に応え買い物と一緒に外出するなどのお手伝いをさせていただきます。	日常の支援の中で、利用者の意向を把握している。買い物などの要望にもできる限り対応している。要介護認定更新時には事前に家族からも聞き取りを行っている。家族で外食したり、本を購入したりと利用者の意向を尊重した企画を立てている。意向を表すことが困難な方には、日常的に観察や家族に話を聞くなどして意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後も、利用していた担当ケアマネジャー及び、家族や本人から情報を得て、今までやってきた家事や生け花等の趣味等が継続できるよう、利用に至る敬意や生活環境なども職員間で共有し、これまでの生活習慣が継続できるような支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメント以外に、ケアプランの更新時の際にもモニタリングや評価を行っており、職員一人ひとりが、利用者の現状をしっかりと把握し、必要な支援について個別ケアに努め、話し合い対応しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や日々のケアの中において、モニタリングやアセスメントを行い、本人や家族の意向に近づいた介護計画にする為、ご本人との会話を大切にし、面会時家族や担当者会議にて職員からの情報を多く得て、介護計画書を作成、職員間で共有を行っています。	初回は施設長が面談を実施して利用者基本情報を作成し、介護計画書はそれを基にして立て、基本的には3ヶ月ごとに見直している。状況の変化が生じた場合にはその都度見直している。日々の個人記録は、介護計画書のサービス内容の番号を記載して介護計画書との連動を図っている。モニタリングシートはフローリーダーが記入して、ケアマネジャーが確認している。介護計画書見直しの際には家族の来訪時や電話連絡などで聞き取りをして、介護計画に反映させている。利用者本人や家族の要望、職員、医療関係者の情報を確認して作成している。サービス担当者会議を主治医が往診に来るときに合わせて実施することもある。	

27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、 気づきや工夫を個別記録に記入 し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かし ている	個人記録に、時間ごとのご様子や、入 居者の言葉や様子を記録し、どうい う思いを抱いているのかをリサーチし、 日々の細かな情報や気づきを記録に残 し、申し送りやカンファにて情報の共 有及び、介護計画書への反映、見直し を行っています。		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に現状必要なサービス、今後必要になるサービスは何であるかを考え、本人と家族の関係性（今までの生活暦等）を考慮しながら、かかりつけ医の受診の支援や親類との関係の調整など、必要なサービスにつなげるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターで行われる地域会議を通して、ボランティアの募集をしています。現在、そこから手芸クラブの先生が毎月来ています。また、畑の提供を受け収穫の喜びを味わい豊かな暮らしを楽しんでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の定期往診を受けていただいています。心身状態について家族や主治医と常に連携を取り、本人が適切な医療を受けられるよう支援しています。また、定期往診を受けていらっしゃる方も、家族との関係性を重視しながら、心身やご家族の家庭環境に応じて、職員が付き添いを行っています。	入居前の主治医を受診している利用者は1名で、受診時は基本的には家族が対応している。受診報告書に職員が家族から聞き取り記入して情報を共有している。緊急時などは職員が対応することもある。他の利用者は協力医の往診を受けている。協力医の往診はユニットごとに隔週で行われている。歯科医は毎週希望者に対して往診がある。透析の利用者は毎回送迎があり、整形外科や精神科に通院している利用者もいる。看護師は週3日非常勤で勤務している。協力医変更に伴い、歯科、調剤薬局も同じ法人となり、医療連携は十分な体制となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の申し送りやケアの中で、相談を行い、個人記録に記入し情報の共有を行い、適切な受診や看護につなげています。また、看護師による介護職員への指導もっており、適切な情報の伝達が行えるよう取り組んでいます。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は介護サマリー（看護サマリー）や、往診医からの紹介状も迅速に提供し、情報提供に努めています。ご家族と連絡を取り、お見舞いに伺って相談に応じています。必要に応じムンテラを行い現状把握に努めています。ご家族の意向を考慮し、適切な対応をとれるよう支援しています。</p>		
----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価 実施状況	実施状況 次のステップに向けて期待したい内容	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針について入居時に説明し同意を交わし、家族の意向を確認しています。病気については早い段階で、ご家族と十分に話し合い、主治医と連携を取り、必要に応じムンテラを行っています。急変時対応マニュアルに沿って支援できるよう職員間で共有しています。	入居契約時に利用者と家族に、重度化した場合の事業所の対応できる範囲について説明し、「利用者の状態が重度化した場合の対応に関する指針」を取り交わし、方針を共有している。ターミナルケアマニュアルも作成し職員に周知している。現在まで看取りの事例はないが、医療連携はできており、職員の研修も看護師を講師にして実施し、外部研修にも参加して体制は整っている。その都度、段階ごとに家族、主治医との話し合いをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時の研修や、社内研修で急変対応や事故対応の研修を行い、発見時の対応や報告、状況等事例や対策をたて、職員全員が対応できるように努めている。また、不安がある職員には、個別に対応の仕方を伝えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に川崎市宮前消防署と連携し、日中の避難訓練、夜間想定訓練を実施しています。また、災害時備蓄品も備えています。	年2回避難訓練を実施しており、消防署の立ち合いがある。夜間を想定した訓練を実施している。地域住民の参加による事業所の避難訓練は緊急連絡網の確認のみである。地域の避難訓練への参加はしていない。運営推進会議で地域の防災については話し合っている。備蓄は飲料水、非常食、冷凍食品、日用品などが確保されている。	地域とのさらなる防災での協力体制を築くことを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという事を意識し、常に尊敬と敬意の念を持って接しています。たとえ、不穏状態が続いたとしても、その方の生活歴や性格を考慮し、言葉掛けや対応をしています。着脱や靴の脱ぎ履きの順番もご本人を尊重し、ご本人の順番に合わせて介助を行う工夫をしています。	利用者の食べこぼしや失禁に対してさりげなく対応することを職員は心掛けている。職員への指導はその都度注意をしたり、申し送り時に確認している。法人の接遇研修が定期的に開催され職員が参加している。個人情報が入力された書類は施錠できるキャビネットで管理している。パソコンについてもパスワードで管理し、個人情報が漏れないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険な行為や言葉、他の方々に不快感や不穏な状態、健康状態に支障にならない限り、自己決定できる支援を心がけています。購入品の希望があった場合は、一緒に買い物へ行き、自分で選ぶように働きかけています。又、入浴後の着替えの洋服や飲み物も、自分で選べるよう声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や更衣、炊事、掃除、洗濯の手伝い等、可能な限りご本人の意向を優先しています。働きたいのか、のんびりと過ごしたいのか、聞き取りや様子から意向をくみ取り支援しています。就寝時間や起床時間も、体調等を考慮し、時間だから寝ていただく、起きていただく等の無理な促しは行っていません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意思や希望を尊重し、ほとんどの入居者が自分で衣服を選んでいます。季節やTPOに合った身だしなみができるよう職員からの声掛けも行っています。また、ご家族と相談して、衣類の買い物と一緒に掛かっています。		

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、 一人ひとりの好みや力を活かしながら、 利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	日常や食事レクレーションなどでは、 入居者ひとりひとりの生活歴や意向を 把握し、積極的に調理に参加していた だけよう、準備やさりげない声かけ の支援を行っています。	職員の調理する負担を考慮して、調理時間の短縮 から冷凍食品の宅配に変更し、利用者に寄り添う 時間を増やしている。朝食は職員が準備してい る。湯呑、茶碗、お椀、箸は利用者の持ち込みと なっている。献立は宅配業者が作成している。利 用者は配膳や後片付などできる範囲で行ってい る。敬老の日やクリスマスにはバイキングを家族 と一緒に楽しんでいる。月2回は「おやつレク レーション」としておやつ作りを、クリスマスには ケーキ、正月にはおせちも楽しんでいる。職員1 名が検食を兼ねて利用者と同じテーブルで食事 をしている。利用者の体調に応じてきざみやとろみ などの食事にも対応している。	
----	----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの摂れたメニューにより食事を提供しています。個人の状態に合わせ、ご飯の量を盛り付けています。また、適切な飲水量が確保できるように、声掛け等、支援を行っています。水分摂取量や食事摂取量は記録に残し、一日の総水分摂取量から、不足時はご本人の嗜好に配慮した飲み物などを提供して水分を取れるよう工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に応じたケアを実践しています。毎食後、口腔ケアの介助が必要な方には、声掛けや見守りや、必要に応じて、介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の尿意や便意の訴えにより声掛け、誘導を行っています。尿意や便意の訴えの無い方、間に合わない方は、記録により排泄パターンを把握し、時間を見計らって声掛け誘導を行っています。	自立の方は5名で、オムツを使用している方が2名、他の方は紙パンツを使用している。排泄パターンを把握して、トイレでの排泄を支援している。トイレは各階に4箇所あり、内1箇所は車椅子対応である。清拭用におしぼりのホットボックスが設置されている。入居時慣れない方が徐々に自立排泄できるようになったり、入院時にはオムツをしていた方が、退院後自立排泄に改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事量、水分量を把握し、排泄の記録を残す事で、便秘の早期発見と予防に努めています。必要な飲水量の確保、おやつ工夫（ヨーグルトや寒天使用）にて排便コントロールの支援を行っています。		

45	17	○入浴を楽しむことができる支援一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴が楽しみになるよう、入浴剤を使用し温泉気分を演出しています。体の状態やご本人の意思を考慮し、気分良く入れるよう声掛けを行っています。拒否がある場合はその方に合わせた声掛けや誘導に努めています。入浴ができない時が続くような場合は、足浴や清拭で対応しています。	入浴は基本としては週2回としているが、要望があればできるだけ対応している。入浴時間は、入居前の生活継続の観点から午後3時からとし、それぞれの利用者の意向に沿って決めている。入浴したくない方には言葉かけや時間をずらすなど工夫している。菖蒲湯やゆず湯、入浴剤も使用して入浴を楽しんでいる。体調によりシャワー浴や足浴に変更する対応もある。足浴を毎日する方もいる。	
----	----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支援 している	それぞれの入居者が、自由に自分の時 間を居室やフロアにて過ごしていま す。お一人での移動が不可能な場合 は、状態観察から、休息の声掛け誘導 を行なっています。夜間安眠して頂け るよう、日中の活動内容も考慮し支援 しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症状 の変化の確認に努めている	服薬は特に配慮をし、症状の変化や経 過などは主治医へ必ず報告し、連携に 努めています。また、看護師が記載し た往診記録の確認、又は、個人記録に 添付してある薬剤情報を確認しなが ら、服薬の支援を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活歴 や力を活かした役割、嗜好品、楽 しみごと、気分転換等の支援をし ている	誰かの役に立つ事で生活に張り合いを 感じて過ごせるよう支援に努めていま す。炊事が得意な方、洗濯干しや洗濯 たたみが好きな方、手芸が好きで小物 入れを作ってくくださる方がいます。職 員や他利用者から感謝されることによ り、喜んでいただいています。職員か ら常に感謝の言葉をお伝えするよう努 めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるよう支援 に努めている。また、普段は行け ないような場所でも、本人の希望 を把握し、家族や地域の人々と協 力しながら出かけられるように支 援している	施設の外部環境面から、日常的に坂を 上って散歩に出られる方に限りがあり ます。可能な方は、ご家族対応も含め 随時外出しています。車いすの方や歩 行困難な方は、天候の良い時に玄関前 に出て花を楽しんだり、水やりを行っ ていただいています。また、ドライブ などにも参加していただいています。 リビングの窓を開放して、外の景色や 風を肌感じていただくなどの支援も 行っています。	事業所が坂の途中にあるため、近隣の団地内を散 歩している。毎日家族の協力で散歩する方もい る。車いすの方は家族が対応している。年2回外 出行事として法人の大型車と運転手を借りて遠出 している。今年は江ノ島水族館へ外出している。 さらにラーメン博物館にも行く予定がある。日常 的には近隣のスーパーに職員と一緒に出かけてい る。近隣の団地のコミュニティー喫茶に出かける こともある。近隣団地の囲碁や将棋の集会に出か ける方もいる。1階のテラスで外気浴・日光浴を 楽しむ方もいる。	

50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は主に事務所で行っており、使った額を請求させていただく立替制度を取っています。ご希望に応じ、家族管理の下、小額のお金を所持できるようにしています。		
----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	用事がある時や、家に帰りたいという訴えがあった時には、家族了解の下、電話ができるように支援を行なっています。また、手紙のやり取りができるよう支援し、大切な人との関わりが続けられるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに季節の花を飾り自然な季節感を感じていただいています。また、ウイルス除去加湿空気清浄器を備え、毎日、湿度や温度管理をこまめに行っています。壁に写真などを飾りご家族や来訪者との会話に繋げています。	事業所内部は清潔で採光が良く明るい。職員が毎日清掃を実施して、3ヶ月ごとに業者の清掃もある。空調の清掃は毎月職員が実施している。毎朝必ず窓を開けて換気に注意している。1階にはテラスがあり外気浴やお茶飲み会を利用者は楽しんでいる。過剰な装飾はなく、「大人のくつろぎ空間」を演出している。各階にトイレが4箇所設置されている。植物学者だった利用者が多数の観葉植物を持ち込み、各箇所に置いて安らぎのある空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者各々が、自由に気の合う入居者の居室に出入りして交流しています。また、自室で絵を書いたり、音楽を聴いたり自由に過ごしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やお気に入りの写真（アルバム等）や置時計などお持ちいただき、そばに置く事により、自宅に近い感覚で、安心して居心地よく生活できるよう、ご家族と一緒に工夫をする配慮をしています。	照明・空調・ベッド・洗面台・クローゼットは備え付けである。使い慣れた家具や家族の写真、テレビ、携帯電話などを持ち込んでいる。趣味の塗り絵や書籍を持ち込んで利用者は自由に楽しんでいる。居室は個人の空間であり、利用者が自身で清掃しているという考え方をし、職員はそれとなく手助けしている。季節の衣類の入れ替えは家族が対応している。表札は大きく表示されていて分かりやすくなっている。	

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内設置の洗面台では口腔ケアや整髪、身だしなみ等自分ができるよう、個別性を重視した環境を目指し自立した生活が送れるよう支援しています。その人の力量に合わせて、家事や楽しみの継続を行っています。		
----	--	---	---	--	--

目 標 達 成 計 画

事業所名 花物語みやまえ

作成日 26年 11月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	地域とのさらなる防災での協力体制を築くことを期待します。	①地域の防災訓練に参加する。 ②施設の防災訓練は、地域の皆様参加で実施する。	① H27年度から町内会の防災訓練に参加する。 ② 日頃から近隣の皆様と顔を合わせる機会を増やす。イベント／老人会など ③ 施設の地域連携連絡網を配布する。 ④ 施設の防止訓練は地域の皆様参加で実施する。	1年 (27年度)
2					
3					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。